

第 11 回宮城県東日本大震災連絡会議 6 月 20 日 15 時～

参加団体：20 世紀、東松島市、多賀城市、サイバー大学、県図書、こころの相談室、東大先端技術センター、メディアテーク、サイバーアーカイブ（東北大）、事務局、みやぎ観光復興支援センター

テーマ：Step1 「インタビューの取り方」

プレゼン①：わすれん（せんだいメディアテーク）

生涯学習施設（仙台市）＝ギャラリー・シアター、ライブラリー、スタジオ併設
市民が様々なメディアを使いこなせるお手伝いを目指して。

1. 震災前の市民協働のモデル-スタジオ活動（ライブラリーを通して共有）

2. センター概要

目的:市民・専門家・映像作家・NPO・スタッフなどが記録、情報を発信するプラットフォーム

趣旨：隔たりを行き来するための回路として | 学習装置としてのビデオカメラ

< 3 が つ 1 1 にちをわすれないためにセンター >

記録をしたい人を募っています。（記録自体を収集する物ではなく）

登録者 168 人（2014 年 5 月）

記録の仕方

記録媒体：テキスト・写真・音声・映像など

記録対象：参加者独自の判断に任せる

記録場所：東日本大震災で被害を受けた所であればどこでも

例：沿岸部の風景やがれき撤去作業 | インタビュー（津波体験、放射能被害） | 文化的

記録数：（大きさ様々）

市へ権利移動済み 映像 743 件 写真 47840 枚 音声 21 件

日本語サイト公開 映像 449 本 写真 1571 枚 音声 41 本

英語サイト公開 映像 152 本 写真 431 枚 音声 22 本 （2014 年 5 月現在）

ウェブサイト（発信する） 日本語・英語サイト（オランダ国王の支援）

公開の内容や時期はスタッフが判断→一部の記録がウェブに公開される。

<http://recorder311.smt.jp/>

記録の利活用

参加者との問題意識の共有、成果物のアーカイブ、公開、利活用のモデル設計

アーカイブの活用

*映像を通しての対話：映像サーベイヤーズ【サロン・ド・わすれんヌ】上映会を企画し共有

*DVD化：1年目15本 2年目17本 *展示（館内で） *映像を通しての対話

* 印刷物発行

少しでも多くの人に見てもらおう為に。

* 学校連携 仙台市内の小学校

内陸部の小学校：こどもたちの映像記録のサポート→今年度DVDパッケージ化（学校連携
枠）

沿岸部の小学校：写真・映像の提供（ふるさと復興ルーム展示）

スタッフによる映像記録：

参加者によって撮影されない内容や場所を考え、ウェブサイト用に映像で記録しています。

スタッフも一市民として撮影

参加者の参考になる映像（被災度合い・多様性）

ないもの（前例がないので、探りながらの活動）

専門性・正しさ・報道、検証・調査・発信力・前例・代表・寄り添い

■ 撮影したもの

スタッフ：ストーリーズ

質問3つ（どこに居たか？ どう考えているか？ 忘れない為に一言メッセージ）

時系列、非言語的

* 「アナザーテイク」

* なみのおと、なみのこえ、うたうひと（映画監督）3つの質問

フォーカスグループインタビュー（親しい人との対話）コミュニケーション

* 質問3つ（短いインタビュー）

小学生による記録

時系列（長いインタビュー）先生方へ、非言語的な表現（映像の面白み）を通して

映像からの語り：生きられる家・雄勝神楽など

Q&A

・編集の苦労話はあるか？

撮影した人が編集（初期）するスタイルを撮っていた。出来るだけ多くの証言を死蔵せずに残す方向。

・ノイズなどの対応：困難な環境、駄目な時はしょうがない。撮る場所を選ぶなどの対応。

BGM、著作権などの対処はあった。

・お蔵入りデータと公開内容の割合は？ 写真 6割公開 映像 写真より高い。

・構造化されてなくてよいし、自由に語ってもらった方が抜け落ちる話はないのでは（柴山）

ビックデータ解析も可能なのでは。学術的、後世に残すなどは考えてなくてよいのでは。

プレゼン②東松島市図書館

<http://www.lib-city-hm.jp/lib/2012ICT/shinsai2012.html>

話したものを残す、文字におこす (PDF) 図書館として生きた資料を残す。

屋内での収録重視 (外はノイズ)

121名の語りを文字起こし作業 (菅原さん) 2012年6月から始まった。

誰に語ってもらうか? 広報を通しても見つかり辛い。

収録フロー:

図書館にて収録、承諾書記入の流れ。人によっては、質問項目を準備し、参考にしてもらう。

3名体制 (進行、カメラ、音) 30分程の設定だが、長くなる。追加での質問。

沿岸部は語る人が多い、内陸部は少ないので、今後均等に埋めて行きたい(2012年)

文字起こしフロー: (5名作業)

(原稿チェックフロー: 1-忠実に、2-流れ、固有名詞をチェック、3推敲完了) ダイジェスト版を作成し、公開

3つのキーワード: 震災の出来事 | 感謝 | 未来に向けて

3年目の目標: 150名

3年目に聞ける事もある。同じ方に再度ヒアリングもあった。

財源確保の流れ: 活動費を獲得しながら、機材をそろえ、活動してきた。今年は、発信に力を注ぎたい。

Q&A

・町中に QR コードの導入 (試作中) 海外での認知度は?

・職員、編集者側の精神的なストレスは?

編集する側も辛いものを共有しながらなので、困難。肌で感じながら。3名体制で望む事で、付加を軽減。アフターケアなど。ファインダーを見るなど。

傾聴活動として大事な活動ではあるが・・・

感情的な話は、客観的に、分析しながら聞く体制 (長く聞ける事のコツ)

映像撮影中の涙は入れられないなど

インタビュアーとの関係性によって語れる内容も違う。

1年目と今での語った内容の差も出てくる。(東松島匿名も可能) 反対があったら、その都度対応してきた。音声のみでのハンディもある。(視覚でなければ伝わらないもの) 文字におこすと映像への収録のチョイス。

・3つの質問はどう決められたのか？

わすれん：相対的に比較できる質問．共に忘却について考えてほしかった．とっかかりの3つ

東松島：自らの被災経験から、必然的に質問項目が決まった。語られたものの中から、特徴的にかぶる部分。

・自助、共助、公助との関係は？ キーワードとして入れるなど。(多賀城見聞から)

・取材し、アップするまでの時間？

わすれん：1～2ヶ月

東松島：1本約3時間

次回の連絡会議 7月18日(金) 15:00～

STEP 3 “メタデータ作成” 公開の為のキーワード作り

柴山先生 (サブ:わすれん)

オープンディスカッション